

「エッセー・絵手紙」案を承認 論文・作文コンクールを発展

昨年まで9回にわたった「パチンコ・パチスロ論文・作文コンクール」に代わる、「第1回パチンコ・パチスロ エッセー・絵手紙コンクール」案が提出され、承認された。一般からの参加も募る新しいコンクールとして、11月1日に募集を開始する。

エッセーまたは絵手紙による作



エッセー・絵手紙コンクールなどを承認した第3回定例理事会

品募集とし、第1回は「パチンコと私」「パチスロと私」「未来のパチンコワールド」の3つのテーマを設定する。エッセーの文字数は2000字以内、絵手紙については市販の郵便はがき（縦15cm×横10cm）を使い、絵と文字で構成した作品とする。従来のような「一般の部」「業界の部」の区分けはせず、どのテーマも参加自由とする。募集期間は11月1日から2011年2月28日まで。入賞作品は同年6月9日の日遊協通常総会で発表される。賞品はエッセー最優秀賞に旅行券30万円（1人）、絵手紙最優秀賞に同15万円（同）。その他入賞多数とし、佳作についても数を増やす。

より一般の参加求めて

パチンコ・パチスロ論文・作文コンクールは、2002年4月、「パ

チンコ・パチスロ産業フェア2002」の中で優秀な社員教育をしているホールを表彰する趣旨でスタートし、2回目（03年2月募集）では対象を業界全体に広げた。3回目（03年12月募集）から、社会との共生のテーマの中で一般の部を新設した。第6回（06年募集）から第9回（09年募集）まで業界の部、一般の部を合わせた応募数は700〜800編を維持してきた。こ

こ2、3年、作品にマンネリ化の傾向が指摘されていたが、パチンコ・パチスロ業界が一般の人たちも対象にコンクールをすることの意義、業界をPRするための文化的事業としての意義を認め、形を変えてやっていくことで広報委員会がアイデアを出し合って検討した。その結果、女性を含めた一般の人の参加を募りやすいということ

でエッセーと絵手紙が選ばれた。同委員会では今後、受賞者と日遊協とのコミュニケーションを図るためのアイデアも出したいとしている。この日、理事会では「論文・作文コンクールはマンネリ化して、プロ的な投稿者が増えてきており、変える時期に来ていた」「絵手紙はなごやかな印象になっていい。作品をいろいろ幅広く活用できそうだ」「絵手紙のような」カルチャータンクのような団体、協会と接触することによって、プレーしたことがない人、昔やっていた人にも関心をもってもらえる」などの意見が出された。（関連記事18ページに）

試打会、対象は一般ファン

遊技機開発委員会が企画している開発機の試打・ヒアリング会を、来年2月26日（土）、東京・錦糸町のすみだ産業会館で行う予定が報告された。さる5月20日に同じすみだ産業会館で行われたCRAA機の試打会に続く催し。5月20日の催しは「大当たりまでの時間が早く、大当たり中のゲーム性が楽しめる、1円パチンコのエッセンスを持つた4円パチンコ機」を、業界関係者を対象に展示・試打した。今回

は新開発のパチンコ・パチスロ機の展示・試打を行うが、対象はあくまでファンとし、パネルディスカッションなどでファンのナマの声、熱い思いを受け止めることを催しのメインに据えていきたいとしている。同委員会と遊技機健全化委員会との合同で行う予定となっている。

就職説明会内容を報告

人材育成委員会が取り組んでいるパチンコ・パチスロ産業の合同就職説明会に関し、11月6日(土)、7日(日)に東京ビッグサイトで開催される「リクナビLIVE」開幕★LIVE(株)リクルート主催)に日遊協のブースが設置される事が報告された。2012年3月卒業予定の学生を対象にする。ホール、遊技機メーカー、販社、周辺機器などについての理解を促進させ、会員企業に優秀な人材を誘導するとともに若年層のユーザー開拓も図りたいとしている。

合わせて、学生が就職先を探すリクナビのホームページに10月1日から「パチンコ産業特集」のホームページを立ち上げ、業界を紹介していく。同ページから日遊協ホームページ内の新卒採用企業(会

員)一覧のページ、さらに各企業のホームページに飛べる仕組みになっている。

遊技業法で報告、討議

超党派の国際観光産業振興議員連盟(カジノ議連)のカジノ法案、民主党の遊技業法案のそれぞれの動向について、篠原専務理事から説明があった。これに対しとくに遊技業法案について、理事の間から「業界が足並みをそろえて、一枚岩で対処すべき」との強い意見が出された。これを受けて、遊技業法案に関して業界の窓口づくりのため、副会長を中心にしたプロジェクトチームを編成することが承認された。またこれとは別に、有識者会議(7月28日に最終会合)の議論に沿って、今後の日遊協の役割と新公益法人への移行等について方向性を決めるため、プロジェクトチームを組むことも承認された。

「機構」への拠出金状況

一般社団法人遊技産業健全化推進機構への拠出金の状況についての報告があった。当初、ホール側と全国遊技機組合連合会(全機連、遊技機メーカー、販社、周辺機器

など8団体で構成)側とで1億9000万円ずつ折半で負担することになっていたが、全日遊連が8月末時点で2億円超を徴収し、ホール側の負担分を越えたことが報告された。日遊協の関係では、日遊協に加入し組合(都道府県方面遊協)に非加入のホールがある企業(8社)からの拠出は125万1100円だった。また、組合及び団体にまつたく属さない業者272社については、日遊協が受付窓口になり全社に協力依頼の手紙を出した。189社が無回答、26社が宛先不明で返送されてきた。県遊協等を通しての拠出が10社あった。今回、ホールの拠出額は前年12月末現在の遊技機設置台数で1台当たり50円となっている。

新規に正会員2社

PSIO(遊技産業不正対策情報機構)への入力累計が7月現在で3万681件となり、2001年10月の正式運用から9年で3万件を突破したことが報告された。

さらに8月現在では3万1505件と伸びている。

2社(正会員)の新規入会を承認した。これで正会員367社(ホール118、機械71、販社134、景品8、その他36)、賛助会員43社、団体入会1団体(同友会)、合計410社と1団体となった。

10月の行事予定

1日(金)	10:00~17:00	店長等講習・試験(大阪ガーデンパレス)
5日(火)	15:30~	東北支部研修会・懇親会(仙台ガーデンパレス)
8日(金)	15:00~17:00	人材育成委員会
	15:00~17:00	社会貢献・環境対策委員会
12日(火)	15:30~17:00	経営改革委員会
13日(水)	10:00~16:50	取扱主任者更新講習・試験(都市センターホテル)
14日(木)	15:00~17:00	広報委員会
	14:30~17:00	連絡会議(グランドアーク半蔵門)
15日(金)	13:00~15:00	遊技機開発委員会
	15:30~17:30	遊技機健全化委員会
20日(水)	13:30~	貯玉補償基金理事会
25日(月)	10:00~17:10	取扱主任者更新講習・試験(都市センターホテル)
	13:30~	不正対策室会議
26日(火)	10:00~1650	取扱主任者新規講習・試験(都市センターホテル)
28日(木)	11:00~	健全営業推進セミナー(北海道支部・札幌コンパニオンセンター)
29日(金)	13:00~	支部強化委員会
30日(土)	10:00~	共生の森・第3回植林(埼玉県嵐山町)

OCTOBER

HP用のリンクバナー設置 会員以外には規制対策も

日遊協ホームページをリニューアルする中で、ホームページ用のリンクバナーが設置されたことが報告された。会員企業をはじめ業界団体・企業の各ホームページとリンクしてもらい、日遊協の露出度を高めることが目的で、リンクフリーになっている。これに関して「例えば、攻略法詐欺会社がダウンロードして日遊協と関係する団体のように装うなど悪用される

ことも考えられる。リンクに関して一定の規約を設け、日遊協会員以外がダウンロードする場合は、規約に同意してもらおうようなハードルを設ける対策も必要ではないか」という意見が出され、今後検討していくことになった。

細部詰め、理事会に提案 エッセー・絵手紙コンクール

「パチンコ・パチスロ論文・作文コンクール」に代わる新しいコンクールとして、「エッセー」または「絵手紙」

を募集する形を正式に確認した。コンクールの名称、作品の基準(エッセーの字数・絵手紙の大きさなど)、募集方法、募集課題、選考方法、賞の内容などの詳細を詰め、9月16日の第3回定例理事会に諮る。承認され次第、正規のポスターを制作、11月から募集を開始する。



第1回パチンコ・パチスロ

エッセー 絵手紙 コンクール応募要項

装いも新たにスタート 11月1日から募集開始

【テーマ】(一般、業界ともに同じ)

「パチンコと私」

「パチスロと私」

「未来のパチンコワールド」

エッセー

最優秀賞Ⅱ 旅行券30万円分1人

優秀賞Ⅱ 旅行券10万円分2人

絵手紙

最優秀賞Ⅱ 旅行券15万円分1人

優秀賞Ⅱ 旅行券5万円分2人

その他入賞多数

エッセー佳作Ⅱ 2万円分10人

絵手紙佳作Ⅱ 1万円分10人

【応募先及びお問い合わせ先】

mail:hosyu@nichiyukyo.or.jp

社団法人日本遊技関連事業協会

コンクール事務局

T104・0033

東京都中央区新川2・12・15

ヒューリック八丁堀ビル2F

TEL03・35553・4333

FAX03・35553・4334

<http://www.nichiyukyo.or.jp>

※応募された個人情報については、個人情報保護法に準じて適宜の法令や規範を遵守し、コンクールの目的以外には一切使用致しません。

遊技機開発委員会

9月17日
本部会議室
出席委員等22人

「難解」が開拓の障害
ファンアンケート調査の概要

「2010年パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査(ホール来店客調査)」報告書(案)の概要が、担当した(株)VECシステム研究所から説明された。

ファンアンケート調査は来店したお客様をホール社員が対面して調査したもので、全国の会員ホールの協力を得て毎年行っている。今回は7月に32社134ホールの協力で2494人の有効回答サンプルを得た。

今回、調査対象店舗の7割近くがパチンコ・パチスロ両方あるいはどちらかで低貸玉・メダル機を設置していたが、パチンコで6割パチスロで3割のファンが低貸玉・メダル機でプレーしている。ただ、低貸玉・メダル機でプレーする人は既存のファンの中の女性、高齢者を中心とした層にとどまっており、新しいファン創出にまで至っていない。「遊び方が難解」と感じるファンが若い人でも半分以上おり、

これも新規ファン開拓の障害になっていると見られる。ファンの喫煙比率が6割以上と相変わらず高く、最近の分煙・禁煙の動きの中でホールがどう対応していくか問題となりそうだ。(ファンアンケート調査結果の詳細は11月号に)

「音」が最大のマイナス要素
未経験者、休止者の体験調査

8月に東京のピーアーク銀座店で行なわれた「未経験者、休止者のパチンコ体験対面調査」の中間報告が提出された。調査対象は最終的に未経験者9人、10年以上の休止者23人となった。性別では男性17人、女性15人。未経験者は18〜29歳、休止者は30〜60代の構成だった。調査では、体験前に未経験者・休止者にパチンコに対するイメージを語ってもらった後、店で一般のお客様に混じってパチンコ遊技を1時間体験してもらい、体験前と後のイメージの変化を見た。

「体験前のパチンコのイメージ」未経験者は「大金を使う」「ギャンブル」など良いイメージを持っていなかった。休止者も「お金がかかる」など悪いイメージが多かった。

「パチンコ体験」店に入った調査対象者たちの第一印象は「意外にいいね」だった。ピーアーク銀座店がきれいな造りになっていること、禁煙であることなどが良いイメージになったと思われる。プレーを始めてからの最大のマイナス要素は「音」で、店内に1時間いることが耐え難いという人が多かった。

「スタッフに遊び方を説明してもらったが、よく聞き取れなかった」という感想もあった。女性に限れば、「すぐ隣の席に見知らない男性客がいるのがいや」という声が目立った。未経験者には、大当たりしても気づかない人、大当たりしてどこが楽しいのかピンとこない人もいた。

「体験後のイメージ」「継続しては遊びたくない」という人が多かったが、最大の理由として「音」が挙げられた。「思ったより楽しい」「どっぷり浸かるつもりはないが、短い時間つぶしなら継続して遊びたい」という感想も多く聞かれた。

遊技機健全化
委員会

9月17日
本部会議室
出席委員等16人

新たな視点を模索
「不正対策勉強会」を検証

全体会議では、6、7月に東京、名古屋、福岡、広島、大阪で集中的に開いた不正対策勉強会についてアンケート結果などから検証が行われた。その後のグループ討議では、①不正対策勉強会の来年の開催に向けての新たな視点 ②誤差玉の研究 ③委員会として新たに取り組むべき課題——などで意見を出し合った。

また、来年2月26日に東京・錦糸町のすみだ産業会館で予定されている、ファンを対象とした新コンセプト開発機の試打・ヒアリング会について、遊技機開発委員会と遊技機健全化委員会とが合同で行う方針との説明があった。

経営改革委員会

9月14日
本部会議室
出席委員等9人

「店のためのイベントでは」

講演・瀬本博一氏が厳しい指摘

経営コンサルタント、瀬本博一氏（株）CES代表取締役、NPO法人PRENET21代表）が、CL（カスタマー・ロイヤリティー、顧客からの信頼）の重要性について講演した。瀬本氏は企業の人事戦略を指導し、事業再生アドバイザーとして活躍している。

瀬本氏はCLについて、「CS（カスタマー・サティスファクション、顧客満足）による『満足』はやがて『当たり前』となり、進化させないとお客様はリピートしなくなる。

CLはCSを含めた企業ブランドへのお客様の絶対的信頼ということができ、リピートの連鎖が生まれる」と説明した。

その上で、「CL監査を行なうと稼働が低下している店を見ると、1円パチンコには人付きがよいが、4円はガラガラというところが多い。しかも4円の最新台にさえお客様がいらない。新台入替をしても、お客様からは抜かれるぞと思われ信頼されていない。抜くためのイベント、店側のためのイベントになつてはお客様がついてこない」と指摘した。



講演する瀬本氏

消費税問題に関するプロジェクトチームを立ち上げること確認し、メンバーの人選に入った。メンバーには一部を旧消費税法部会（昨年度までの明日の経営を考える委員会）からの起

用も考えられている。また、消費税以外に今後取り上げていく課題を話し合い、賃金・労働問題などが候補にあがった。

PSIO不正対策室会議

情報累計が3万件超す

「打ち子」問題などを討議

不正対策室会議（室長・伊東愼吾常務理事）は9月21日、日遊協会議室で開かれPSIO（遊技産業不正対策情報機構）の入力情報報告され、ゴト情報・不正情報について討議した。PSIOの入力数は7月に累計3万681件となり、2001年の10月から約9年で3万件を突破した。8月分については、オープンネット（業界一般の不正情報）が835件で、前年同期より259件増となり、そのうち一般のパソコンからの情報は650件、昨年より255件増となった。

ゴト情報では、釘曲げゴト、メダル貸機ゴトの増加が報告され、メーカーの対策、貸機のカギの扱いなどについて検討された。不正情報では「打ち子勧誘」による攻略法詐欺の実態について討議された。

流通制度委員会

9月13日
本部会議室
出席委員等14人

「出題配分基準」を説明 新規、更新の「取扱主任」で

取扱主任者試験制度の改善について協議した。事務局側から警察庁通知文書による新規取扱主任者の講習・試験実施基準の内容と、これを受けての「新規取扱主任者試験問題出題配分基準」、さらに「更新時試験問題出題配分基準」が説明された。委員側から「受験者は間違えた部分を知りたいと思ってる」とくに間違い回答が多い設問で、それが理解しておかなければならない重要事項ならば、公表して受験者に覚えてもらうことが必要ではないか」との意見が出された。これについて事務局側は、回答の傾向などについて年1回程度、



取扱主任者試験の改善を協議した流通制度委員会

委員会へ報告するなどの前向きな検討を示唆した。